令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月３日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・本校の特色・生徒の進路実現に沿ったカリキュラムを編成する。 ・コミュニケーション能力、ICT 運用能力を高めさせる授業を推進する。 ・生徒が主体的に学習に臨むための課題設定や家庭学習の推進、講習などへの参加を促進する。	⑴今年度から始まった新カリキュラムについて、授業の進め方や評価の方法についてテーマを設定し研究を進める。 ⑵ 学校全体で ICT 機器が有効利活用されるよう授業改善に取り組む。 ⑶内容や時期について、生徒のニーズに合った講習を設定する。家庭学習を促す取組について検討する。	⑴新カリキュラムの授業を担当する教員を中心に教科で研究し、成果を教員全体で共有する体制を整える。 ⑵１学年担当教員を中心に生徒所有の ICT 機器の利活用について事例の研究と実践を進め、成果を全体で共有する。 ⑶長期休業中に適切に講習を設定するほか、課業期間中においても有効な手立てを検討する。	⑴新カリキュラムの授業について教科全体で研究の機会を設定できたか。それらの成果を教員全体で共有できたか。 ⑵生徒所有の ICT 機器の利活用について事例研究及び実践を進められたか。それらの成果を教員全体で共有できたか。 ⑶生徒のニーズを把握し、それに合わせた講習を設定できたか。	⑴授業改善プロジェクトチームを中心に新課程科目の研究を進め、研究授業・協議の機会を２回設けた。 ⑵ロイロノートの導入により、特に言語学習や探究活動で ICT 機器の活用機会が多かった。研究授業では日頃より ICT 機器を活用している授業実践例が多数報告された。 ⑶夏季休業中には多彩な 15 講座が開講されたほか、個別の指導にも丁寧に対応した。	⑴指導と評価の一体化については、継続して研究と実践を進めていく。 ⑵生徒から授業でもっと活用してほしいという声が上がった。教員の使用できる情報端末の配備数が増えたことを受けて、授業での活用場面をさらに増やすよう研究していく。 ⑶個別対応については生徒の満足度が高いため、教室の確保を工夫し、机・照明の整備も進めていきたい。	・授業改善プロジェクトチームを中心にして学校全体の授業改善が着実に実施されていて、生徒の学習意欲が高まっている。個別指導も丁寧に行われていて生徒の満足度が高い点を高く評価できる。 ・ICT 機器の活用をロイロノートの導入によって進めてことは評価できる。時代に合った教育をしっかり取り入れていくことは、次代を担う子どもにとって必要である。 ・夏季休業中の 15 講座の具体を知りたい。先生方は大変だろうが、増やしてほしい。	⑴新カリキュラム１年目において、指導と評価の一体化に関する研究と実践は一定の成果を収めた。２年目はこれらの成果に基づき、特に、評価を指導に生かすという視点をもって実践を進める。 ⑵スクリーン及びプロジェクタ等の ICT 機器を各教室に配置したことでタブレット PC を利活用した授業実践が広がったが、使用率は未だ十分でないという声もあり、利活用場面について研究を進める必要がある。 ⑶長期休業中の講座設置及び個別学習への対応については、生徒のニーズに合わせて実施することができた。今後も生徒の意欲を汲み取っていきたい。一方で自習のための空間確保に課題を残した。	⑴新カリキュラムが２学年での選択科目や芸術の科目にも広がることから、それぞれの科目の特性を踏まえた研究を進め、成果の共有に努める。また転任者が他校などで行った研究の成果も取り入れる。 ⑵ICT 機器を有効活用できる事例、逆にプリント等が適する事例について教員間で意見交換を行う場を設けるなど、生徒の学習意欲を高めるための方策について議論を深める。 ⑶長期休業中の講座については目的や受講すべき生徒像をより明確にすることも含めて効果的に行われるよう検討する。自習や個別指導の充実について、生徒の意見を踏まえながら実現に向けて取り組む。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動を通じ自主自立の精神を確立し、次世代を担えるリーダーの育成に努める。 ・挨拶を軸とした規律ある学校生活を確立させる。 ・教育相談体制を更に充実させる。	⑴生徒が積極的、主体的に学校行事等に取り組み社会に貢献し得る人間力が養えるように助言・支援を行う。 ⑵部活動加入率を高め、部活動が活性化するように支援する。 ⑶図書館の利用率が高まるように取り組む。 ⑷挨拶の習慣化に取り組む機会を作る。 ⑸教育相談後の支援について、必要に応じて関係諸機関と情報共有を行う。	⑴生徒主体で学校行事を企画・運営できるように各生徒委員会活動を支援し、社会に貢献する意識が育成されるよう促す。 ⑵部活動オリエンテーションや見学会を活性化し、部活動がより身近なものとなる環境づくりをする。 ⑶教科の学習や総合的な探究の時間等でも活用されるように、図書館資料等を充実させ利用率・貸出冊数の増加を図る。 ⑷挨拶運動や登下校指導等で生徒と協働する活動を計画する。 ⑸教育相談会議の情報を基に、外部機関とも連携し支援する。	⑴行事後のアンケートにおいて、満足度や達成感が 80%以上であったか。 ⑵新入生の部活動加入率が 80%以上であったか。 ⑶貸出経験率が昨年度(58%)より増加したか。 ⑷生徒と協働する活動を実施できたか。 ⑸情報共有を基にした必要な支援体制を複数構築することができたか。	⑴行事後のアンケート結果では、体育祭、文化祭、球技大会、芸術鑑賞会のいずれも満足度が高く次年度も開催したいという生徒意見が９割近くあげられた。 ⑵新入生の部活動加入率は約７割であった。 ⑶貸出経験率は 45%であり昨年度を下回ったが、一人当たりの貸出冊数が増加しており利用する生徒のリピート率が増加した。 ⑷交通安全啓発活動など、生徒と保護者が協働して活動した。 ⑸関係機関と連携して、生徒支援を行った。	⑴今後も生徒の意見を活かしながら生徒自身が企画運営できるように支援していく。 ⑵コロナ禍で中学時代に部活動があまりできなかった学年に対して部活動の魅力を発信できるようにオリエンテーションを工夫していく。 ⑶今年度の結果から一度利用すると再び利用する割合が高いことがわかったので、まず一度図書館を利用する機会を促すよう方策を考える。 ⑷挨拶や身だしなみなど、学校生活において生徒と協働する活動を増やしていく。 ⑸多岐にわたるニーズに対して組織的に対応する体制を構築する。	・各学校行事に対する生徒の満足度が高かったことは評価できる。 ・従前から学校行事を大切にした取組が行われていて、生徒の取組む意識も高い。 ・部活の加入率も他行より高いと伺っていて先生方の指導の表れと評価致する。 ・部活動への加入率がもう少し高いといい。引き続き魅力的な発信を行ってほしい。 ・図書館は、入りやすい仕組みがあれば生徒達の活用も増えると聞いた。深沢高校の図書館はどうであろうか。	⑴コロナ禍の影響で活動の制限が続く中、学校行事等に対して生徒が積極的かつ自主的に活動できるように支援をし、一定の成果を上げることができた。 ⑵コロナ禍のため中学時代に部活動に積極的に取り組むことができなかった世代のため、部活動に対する思いの低調さを感じる中、部活動の活性化がうまくいかず加入率の向上がかなわなかったため、さらなる部活動加入率増加への取組みが必要である。 ⑶図書館の利用を向上させるために委員会を中心に活動し、リピート率は向上してきたが、全体としての大きな利用向上へとはつながらなかったため、利用拡大のための新たな方策が必要である。 ⑷コロナ禍での限られた条件下でも工夫しながら PTA と連携して生徒の交通安全指導を行うことができた。生徒との協働が行えた点も成果である。生徒の自発的な動きを促進できる体制を整えていくことが課題である。 ⑸今年度も関係機関との連携で生徒支援を行ったが、多岐に渡る問題への支援は困難だった。	⑴コロナ禍の影響が少しずつ緩和されていく中、体育祭・文化祭といった学校行事に対して生徒たちがより積極的かつ主体的に取り組めるように委員会活動や HR 活動をとおして支援していく。 ⑵新入生の部活動加入率を向上させるために新入生オリエンテーションの充実、仮入部期間の新設、一斉入部日の設定などを行う。また、生徒会本部や各部活動を支援し、途中退部者が減少するように部活動に対しての様々な支援策を考えていく。 ⑶図書館の利用状況が向上するように委員会を中心に PR 活動図書館通信の充実等の啓発活動を恒常的に行う。また、新入生図書館オリエンテーションの充実に力を入れていく。 ⑷協働の内容を、生徒にとってより身近なテーマにしていくことで、生徒が主体的になって動けるものにしていきたい。 ⑸連携する機関を増やしていくことで、より生徒のニーズに応じた幅広い支援ができるように体制を構築していく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月３日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	・希望の進路実現のために、高校入学後の早期に進路意識を高めさせる。	⑴インターンシップへの全員参加を目指し、コロナ禍においても有効な職業教育の機会を設定する。 ⑵１年生に対し、職業意識を高めるプログラムを設定する。 ⑶学校推薦型選抜及び総合型選抜希望者への指導を強化する。 ⑷外部テストの事後指導を強化する。	⑴受け入れ事業所を確保するとともに「仕事のまなび場」への参加及び職業調べを課題として用意する。 ⑵職種の紹介から理解までを朝の読書活動や総合的な探究の時間のグループワークで行う。 ⑶希望者との個人面談を早期に行い、必要に応じて作文や志望理由書の指導、面接対策をきめ細かく行う。 ⑷外部テストの振り返りを丁寧に行い、外部テスト結果個人票の効果的な活用を進める。	⑴インターンシップが職業観を育てる上で有効な教育活動となったか。 ⑵職業理解のプログラムを１学期に３回以上行うことができたか。 ⑶３年生全員への個人面談が適切な時期に実施できたか。また、調査書の記述内容充実の方策を示せたか。 ⑷個人結果の振り返り指導によって、２回めの外部テストにおいて、大学進学を希望者の 50%以上が成績上昇したか。	⑴ １年生で学校インターンシップ 87 名、地区インターンシップ 100 名参加があった。残りの 51 名は仕事のまなび場に参加した。 ⑵進路業者と協働し、また今年度は企業と連携し、金融セミナーを行うなど、様々な企画を実施できた。 ⑶３年担任の尽力で５月上旬にはほぼ全員の面談を終え、志望校や受験方式等を把握した。 ⑷外部テスト実施後に丁寧な振返りを行った。	⑴希望する職種の確保が難しかった。次年度のインターンシップ実施に向けて２月から準備を進める。全員参加を目標に事業所を開拓する予定である。 ⑵職業意識とキャリア形成の意識をさらに高めるために、総合的な探究の時間のさらなる活用を検討したい。 ⑶３年担任の負担が大きく、学年団や全体としての運営を考えたい。 ⑷外部テストによって生徒の進路意識が向上することを目標に、方策を検討していく。	・インターンシップの参加率が高く、評価できる。希望の職種に、より多くの生徒が参加できれば効果が上がる。 ・ほとんどの生徒が進学する学校でありながら、インターンシップの実施や職業意識を高める取組は気苦労も多い事だと思うが、進路選択に役立つので今後も継続してほしい。 ・生徒の進路決定に係る状況が大きく変化する中、適切な進路指導が行われ、多くの生徒が希望する進路に進めたと思われる。	⑴インターンシップに１年生全員を参加させることはできなかったが、希望に漏れてしまった生徒は仕事のまなび場に参加することで全員に将来を考える機会を与えることができた。 ⑵総合的な探究の時間を利用して、１年生向けの職業理解プログラムを複数回実施できた。単発の行事だけではなく、年間を通じて計画を考えたい。 ⑶３年生に対しての個人面談を４月から実施できた。また、面接指導、志望理由書指導を教員全員で行った。学年団だけではなく、教員の負担が多少増えることが課題である。 ⑷今年度から３学年すべてでスタディーサポートを実施した。３年間のデータを有効活用した結果、一般受験において進路意識が向上し、希望の進路を実現した生徒が増加した。	⑴インターンシップ全員参加を目標としたい。明確な目的意識がなく事業所を選ぶ生徒もおり、事前指導をさらに充実して興味関心の高い分野に参加させたい。 ⑵１年生向けの職業理解プログラムを年間を通じて定期的に実施したい。将来に具体的なイメージを持たせ、夢の実現のために学習に意欲的に取り組むようにさせたい。 ⑶３年生には多岐にわたる入試制度を深く理解させ、生徒個人に合った入試方法をさらに細かくアドバイスしたい。担任だけが担当するのではなく、学年団全体で指導できることを理想とする。教員の研修も行いたい。 ⑷３年間のデータを有効活用するために、各学年で指導するべき点を検討して、また模試なども有効活用しながら、生徒の進路第一希望の実現に向けて有効活用したい。
４	地域等との協働	・シチズンシップ教育及びボランティア活動を通じて、主体的に社会の形成に参画する意識を醸成する。 ・地域の教育力を活用した学びをとおして、家庭や地域社会との共通理解を深めさせる。	⑴地域のニーズや生徒のニーズに応じたボランティア活動を展開するとともに、地域との連携を改めて確立していく。 ⑵学校 HP を中心とした情報発信について、中学生とその保護者や地域住民の求める内容を適切なタイミングで提供する体制を整える。	⑴すでに関係のある活動先と十分に協議し、可能な活動を準備する。屋外の活動など安全・安心を確保した活動先を開拓する。 ⑵本校の教育活動の様子が伝わるようにスムーズに情報発信する。個人情報の保護には十分に配慮する。	⑴ボランティア活動を通じて地域から満足してもらえたか。また参加生徒が高い満足度や充実度を持てたか。 ⑵本校の行事や日常的活動、部活動などの様子など、スムーズに情報を公開することができたか。	⑴引き続くコロナ禍で、今年も屋外活動を中心に積極的にボランティア委員会を運営し、継続して活動した。 ⑵HP の更新頻度を高め、写真の掲載も増やした。体育祭、文化祭等の掲載を充実した。部活動でも顧問と協働して、好結果などを速やかに掲載することができた。	⑴今後も生徒が地域社会に参画する機会を設ける。 また、徐々にでも地域に働きかけ、学校として活躍できる機会を増やしたい。 ⑵学校の様子がわかるよう、今後も速やかに情報を発信していく。	・シチズンシップ教育及びボランティア活動は深沢高校の特色の一つである。これ等の体験活動は将来必ず役立つので、授業や部活動と共に今後も地域との連携を深めて継続してほしい。 ・コロナ禍を乗り越え、屋外でのボランティア活動が実施され、また地域への発信が積極的に行われるなど、地域との連携が十分行われた。	⑴ボランティア委員会の活動により、地域貢献を充実することができたと同時に参加生徒の充実感が高まった。一方でコロナ禍のため活動先が２カ所に限られ、活動頻度を高められなかった。既存の活動先は屋内施設がほとんどで高齢者施設も多く、再開には殊更に慎重にならざるを得ない。 ⑵行事、部活動など学校生活の様子をスムーズに情報公開した。また、ＨＰ上での情報から中学生より問合せがあるなど、一定の成果を得ることもできた。	⑴コロナ渦でも継続できたボランティア委員会を、次年度はコロナ渦前にも行っていたようなことも含めて検討し直し、より地域貢献へとつながる活動を増やしていきたい。また、生徒の活躍の場としての位置づけをより明確にし、活動を通した充実感を味わえる機会を多く求めたい。 ⑵引き続き、生徒会を含めた生徒の力を最大限に生かしながら、情報発信に努めたい。また、入学者選抜を意識した情報公開や、学校の特色の発信に力を入れていきたい。
５	学校管理 学校運営	・コンプライアンスを重視した事故不祥事の防止の継続的な取組を行う。 ・安全、安心で円滑な学校生活が送れるような校内環境を維持する。 ・教職員が心身ともに健康的に教育活動に従事できる職場環境を整備する。	⑴全職員が不祥事防止を自覚するために、日頃から啓発及び周知を励行する。 ⑵感染予防を常に意識し、安全・安心な教育活動のための環境整備を行う。 ⑶校長のリーダーシップに結集するとともに、効率的な働き方を心掛けて学校運営を進める。	⑴事例に基づいた啓発活動を通じ、教育公務員としての自覚と意識を持続できるよう、事故不祥事防止研修を適宜実施する。 ⑵感染予防のための施設・備品の充実を図る。 ⑶作業効率の改善、学校設備の整備など、働く上での環境整備に努める。	⑴アンケート等の回答から、自覚や意識の高まりを確認することができたか。 ⑵感染予防の予算を有効活用できたか。 ⑶学校設備の整備により業務が効率化されたか。また改善等の要望に対して具体的に対処することができたか。	⑴ほぼ毎週事故防止会議を行い、また毎月事故不祥事防止メッセージリレーを実施することで、職員の危機管理意識、規範意識を高めた。 ⑵感染症防止の活動を通して安全安心な環境づくりに努めた。 ⑶校長の呼びかけの下、年休を取得しやすい職場環境をつくった。	⑴管理職からの啓発を含め、日頃から職員間で不祥事防止を意識している。今後も継続していく。 ⑵感染症に十分配慮し、今後も安全安心な環境づくりのため尽力していく。 ⑶職員間で調整し合うことで、休暇取得を含めた働きやすい職場環境づくりを目指す。	・日々の取組や意識の向上を欠かさず職員間の連携や職場環境の整備に留意して、職員のモチベーションを高めてほしい。 ・事故防止・感染症防止、職員の働き方改革について、適切に対応できていると思われる。 ・有休をきちんと取得できる職場をアピールし、先生を目指す若者が増えるよう頑張ってほしい。	⑴毎回の企画会議での不祥事防止会議、職員会議開催時の事故不祥事防止に関する啓発、毎月の事故不祥事防止メッセージ策定など、職員の危機管理意識、規範意識を促す活動を継続的に行った。 ⑵感染症予防のための対策や除菌作業などを職員全体で取り組み、安全安心な環境づくりに取り組んだ。 ⑶）管理職による年休取得の促進およびその環境作りにより、働きやすい職場環境を整備できた。	⑴職員の危機管理意識、規範意識を高めるためにも、職員の齟齬や捉え違え等があった場合、職員間で情報共有をした上で、改善策を共有し、自分のこととして捉えていくよう努める。 ⑵感染症対策を含め、安全安心な学校運営を目指し、職員の協力体制を整えていく。 ⑶勤務時間の管理や年休取得しやすい環境作り、業務遂行のための職場環境の整備を目指すため、仕事内容の共有や分担、声掛けを行い、年休取得率の向上や超過勤務時間の減少を目指す。